

東北地方 1か月予報

(10月16日から11月15日までの天候見通し)

平成16年10月15日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

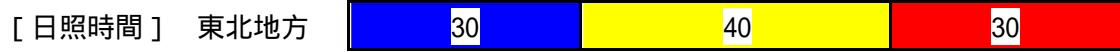
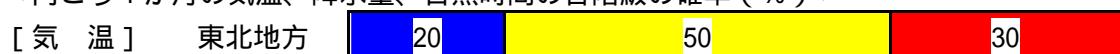
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、低気圧の通過後は一時寒気が南下するでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は高く、2週目、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 10月16日(土)~11月15日(月)

1週目 : 10月16日(土)~10月22日(金)

2週目 : 10月23日(土)~10月29日(金)

3~4週目 : 10月30日(土)~11月12日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は10月22日

3か月予報: 10月25日(月) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	11.0	121.5	150.8	13.1	11.8	10.1
新庄	9.2	180.3	89.0	11.6	10.2	8.2
若松	10.0	71.0	111.6	12.4	10.8	9.0
深浦	10.5	157.1	107.1	12.7	11.4	9.5
青森	9.6	123.8	127.2	11.9	10.5	8.5
むつ	9.3	113.9	141.1	11.6	10.3	8.3
八戸	9.7	72.4	157.9	12.1	10.6	8.7
秋田	10.6	173.7	121.8	12.9	11.6	9.6
盛岡	8.7	100.2	139.9	11.0	9.6	7.7
宮古	10.5	92.4	158.5	12.5	11.2	9.6
酒田	11.8	196.7	118.4	14.1	12.7	10.8
山形	10.2	74.8	123.7	12.5	11.0	9.1
仙台	12.0	80.3	155.5	14.2	12.9	11.0
石巻	11.3	84.8	162.9	13.6	12.2	10.3
福島	11.9	74.7	143.9	14.1	12.7	10.9
白河	10.4	80.4	154.0	12.5	11.2	9.6
小名浜	13.5	114.0	166.1	15.5	14.3	12.6

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.5	84~111	95~105
東北日本海側	-0.5~+0.5	92~107	95~106
東北太平洋側	-0.4~+0.5	69~120	96~105

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.5	-0.7~+0.7	-0.6~+0.7
東北日本海側	-0.7~+0.6	-0.7~+0.7	-0.5~+0.7
東北太平洋側	-0.7~+0.6	-0.6~+0.7	-0.6~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。

階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年10月15日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(10月16日～11月15日):

天気は数日の周期で変わり、低気圧の通過後は一時寒気が南下するでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(10月16日～10月22日):

高気圧に覆われおおむね晴れますか、期間の終わりは気圧の谷や前線の影響で天気のくずれる日があるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目(10月23日～10月29日):

天気は数日の周期で変わり、低気圧の通過後は一時寒気が南下するでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

3～4週目(10月30日～11月12日):

天気は数日の周期で変わり、低気圧の通過後は一時寒気が南下するでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

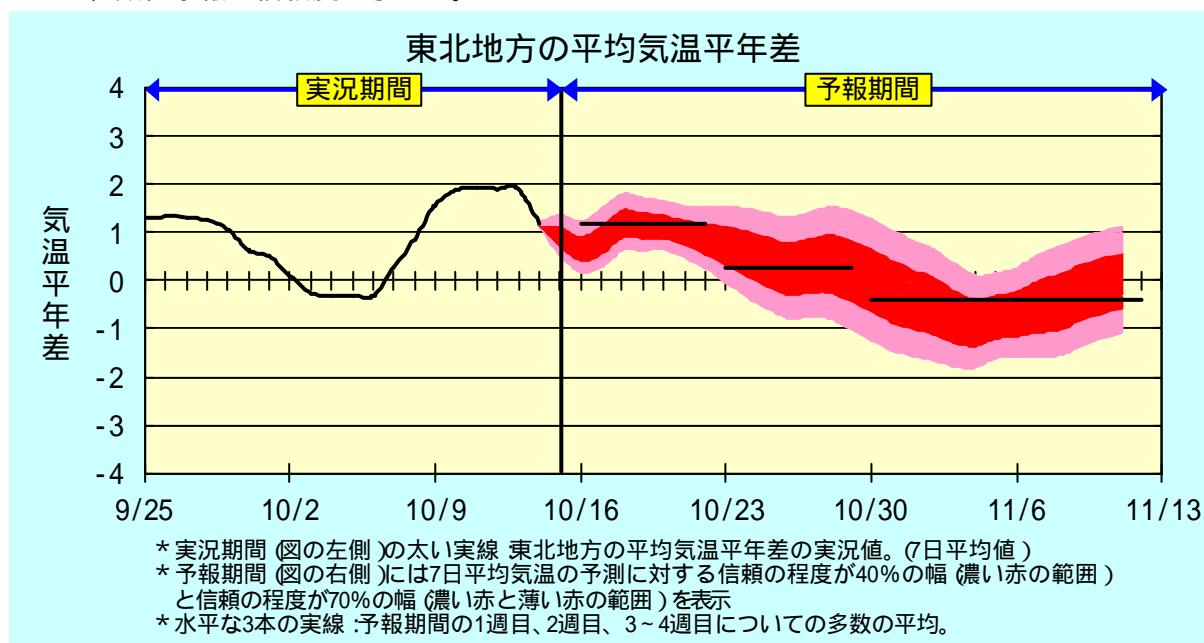
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数				
	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	12.1日	3.5日	3.2日	5.4日
東北太平洋側	17.0日	4.1日	4.5日	8.4日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「高い」、2週目、3～4週目を「平年並」と予想している。予報は数値予報通りとする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

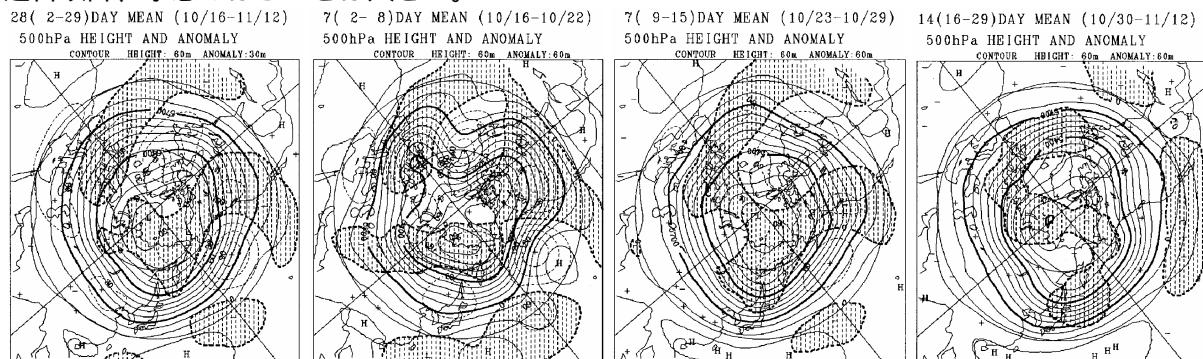


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

極付近からカムチャッカ半島にかけて負偏差域が広がるが、日本付近は大陸に中心を持つ高偏差域に覆われる。偏西風の流れは順調で、天気は数日の周期で変化する。

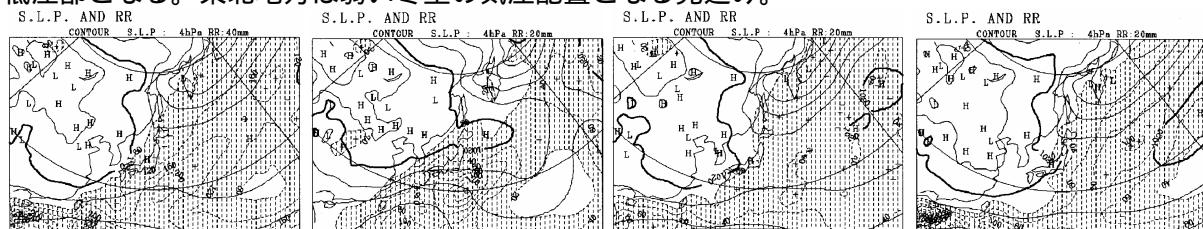
1週目は、日本付近に中心を持つ正偏差域に覆われる。2週目以降は、極付近からのびる負偏差域が北日本にかかるが、亜熱帯高気圧の勢力が強く、寒気の南下は一時的の見込み。ただし、2週目以降、予想のばらつきは大きい。



地上気圧と降水量：

月平均では、大陸の高気圧が日本付近まで張り出し、アリューシャンには低気圧が予想され、一時寒気の影響を受ける見込み。日本の南岸にはまとまった降水域が見られる。

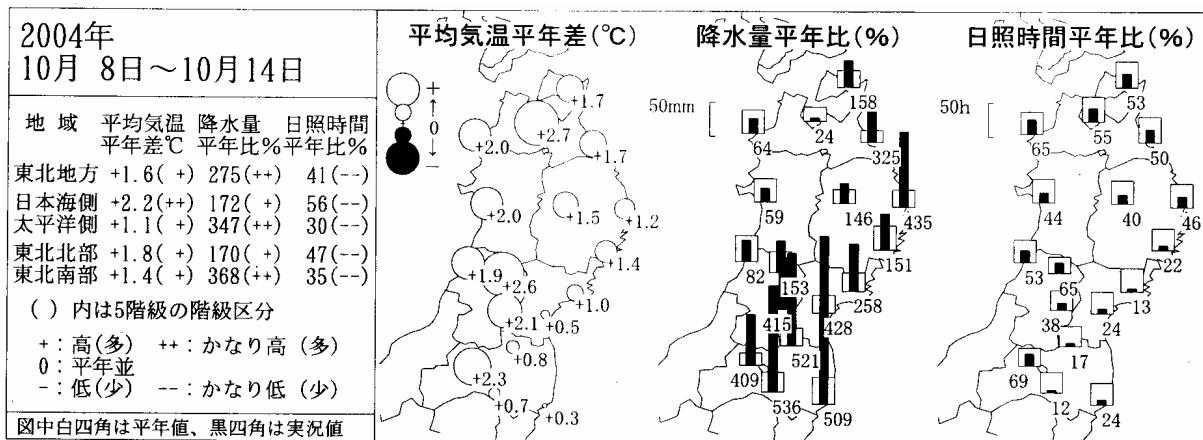
1週目は、大陸の高気圧が北海道付近に張り出し、日本の南岸にはまとまった降水域が見られる。2週目以降は、大陸の高気圧が日本付近に張り出し、カムチャッカ半島から北海道付近まで低圧部となる。東北地方は弱い冬型の気圧配置となる見込み。



4. 最近1週間（10月8日～10月14日）の天候の経過

前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が続いた。特に、9日は台風第22号が関東に上陸したため、東北太平洋側の南部を中心に大雨となった。これで日本に上陸した台風は9個となり、観測開始以来最も多い記録となった。

平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。日照時間はかなり少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)